

一般社団法人 武雄杵島地区医師会

理事会会報

令和7年7月18日



日本医師会 松本会長によるご講演

(九州地区医師会立共同利用施設連絡協議会／ホテルニューオータニ博多)

(一社) 武雄杵島地区医師会

理 事 会 会 報

§ 令和 7 年 度 第 4 回 理 事 会 §

- 日 時：令和 7 年 7 月 1 8 日（金）午後 7 時 0 0 分～
- 場 所：武雄杵島地区医師会 2 階会議室
- 出席者（理事総数 1 8 名・出席者 1 2 名、欠席者は―で抹消）
（定款第 37 条第 5 項により成立することを確認(過半数の出席で成立)）
（代表理事）太田光博
（副 会 長）大隈良成、沖田光紀
（理 事）持田和幸、檜崎史彦、松本洋二、森 徹、~~谷口一亮~~、藤瀬剛弘、
~~草野謙一郎~~、篠田大介、田中雅博、~~武岡陽介~~、溝上健次、森 倫人、
~~川添聖治~~、~~有島宏明~~、道塩和久
（監 事）田中裕幸、嬉野光俊
（顧 問）古賀義行
- 議 長 太田光博

I. 会長挨拶

皆さま、こんばんは、本日はお仕事終わりのお疲れのところ、理事会にご出席いただき誠にありがとうございます。

いよいよ今週末 20 日には参議院選挙が行われます。医師会が推薦しております、山下雄平候補・釜菰さとし候補をよろしくお願い致します。

II. 承認事項

1. 令和 7 年度佐賀県「ストップ糖尿病」対策会議の委員について

推薦する委員：藤瀬剛弘先生 ※委員継続・交代等の確認依頼

★承認された

2. 第 14 回「日本医師会 赤ひげ大賞」候補者推薦について

推薦候補者：小野辰也先生

★承認された

3. 令和7年度「救急の日」及び「救急医療週間」に係る協賛について

(武雄消防署および白石消防署より)

期間：令和7年9月7日(日)～9月13日(土)

事業：一日救急隊長、キッズラボお仕事研究室、救急車の展示など

協賛金：各2万円(恒例)

★承認された

4. 令和7年度第1回佐賀県地域医療構想調整会議南部構想区域分科会の開催について

日時：令和7年7月29日(火)19:00～

場所：武雄総合庁舎 別館2階 大会議室 ※委員の出席依頼

委員：太田光博先生

★承認された

5. 武雄市DV防止対策協議会委員の推薦について

任期：令和7年8月1日～令和9年7月31日

推薦する委員：浜田芳人先生

★承認された

III. 各担当理事報告

1. 全理事会報告(太田 光博会長)

・7月10日に開催された佐賀県ドクターヘリ運航調整委員会についてです。令和6年度のドクターヘリ要請件数は524件で、このうち出動件数は320件、転院搬送件数は39件、飛行後のキャンセルは56件、条件を満たさなかったことによる未出動は109件との報告ということでした。主な搬送先としては、佐賀大学医学部附属病院が59件、嬉野医療センターが56件、佐賀県医療センター好生館が38件となっております。

・7月10日に開催された佐賀県糖尿病対策推進会議についてです。今年度も、11月9日から15日の期間に「世界糖尿病デー」が実施されます。例年どおり、佐賀メディカルセンター、唐津城、昇開橋においてブルーライトアップが行われる予定です。また、11月14日(金)にはSAGAアリーナでもライトアップが実施される予定です。今年度の啓発イベントの開催地区は唐津市・玄海町で、11月16日(日)に「うまかもん市場」にて普及啓発イベントが行われる予定です。なお、令和8年度は武雄杵島地区が啓発イベントの開催地区となっております。

・7月14日に開催された佐賀県メディカルコントロール協議会についてです。報告事項としては、救急救命士における特定行為の認定人数および実施人数、また各種認定

状況についての報告がありました。協議事項では、「DNAR プロトコール検討部会」の設置について協議が行われ、部会を設置することが決定されました。

・7月14日に開催された「佐賀県後発医薬品使用検討協議会」についてご報告いたします。全国的に後発医薬品の使用割合の目標は80%とされていますが、佐賀県では84.3%と、目標を上回る使用率となっているとの報告がありました。一方で、金額ベースでの目標は50%未満とされていますが、佐賀県では52.4%となっており、目標を達成できていない状況です。今後は、歯科診療においても後発医薬品の使用が進むよう、さらなる改善を求めていく方針が示されました。

・佐賀県における新型コロナウイルス感染症の状況（定点報告）についてです。直近の7月7日～13日の1週間は73名（3.04名）で、前週（6月30日～7月6日）の61名（2.54名）に比べると若干増えつつあります。

・季節性インフルエンザの状況（定点報告）についてです。7月7日～13日の1週間は6名（0.25名）で前週の14名（0.58名）からは減少している状況となります。

2. 第56回九州地区医師会立共同利用施設連絡協議会報告

（太田 光博会長・持田 和幸理事）

＜検診・検査部門：太田光博会長＞

7月5日（土）～6日（日）に第56回九州地区医師会立共同利用施設会議が開催されました。私は検診部門に出席しましたのでご報告させていただきます。

はじめに、飯塚医師会からは「糖尿病重症化予防への取り組み」として、特定健診の2次検診における尿中アルブミン定量検査の活用について発表がありました。尿中アルブミン定量検査は、糖尿病性腎症の早期発見や予後の判定に有用であることから、2019年より特定健診の2次検診に導入されています。検診受診者12,298名のうち、糖尿病型と判定された1,937名のうち、尿蛋白が陰性または±であった1,711名に対して本検査を推奨し、そのうち1,132名に実施されました。結果に応じて、正常アルブミン尿の方はかかりつけ医での治療を継続し、微量アルブミン尿（30～299 mg/gCr）の方252名については糖尿病専門医との連携、顕性アルブミン尿（300 mg/gCr 以上）の方については腎臓内科との連携が推奨されました。行政、かかりつけ医、専門医が連携することで、新規透析導入の抑制が期待されるということです。

続いて、北九州市小倉医師会からは「胃検査の現状と課題」について報告がありました。胃の検査を含む健診コースの中で、協会けんぽによる生活習慣病予防健診が全体の約68%を占めていますが、胃の健診を中止する方が多い現状があります。中止の理由としては、胃の病気で管理中の方が約20%、すでに検査を予定・受診済みの方が約40%、バリウムアレルギーの方が13%、体調不良や基礎疾患により主治医から検査許可が出ない方が30%弱とのことでした。誤嚥や気分不良などのリスクを軽減するために「胃X線検査のリスク問診票」が活用されており、リスクの高い方への配慮が行われています。

質問として「いつまで胃透視を続けるのか」との問いに対しては、胃カメラをできる人材や設備の制約による実施が困難であるため、現状では近隣の開業医に依頼

して対応し、今後しばらくはこのまま胃透視を続けると回答されていました。当地区と同様の課題が見受けられました。

最後に、福岡市医師会からは「検査結果配信と電子カルテ連携による効率的院内外連携ソリューション」についての報告がありました。業務効率の向上や情報共有の迅速化を目的として、ICTの利活用が進められており、検査結果の配信と電子カルテとの連携による仕組みが紹介されました。これにより、紙による依頼書が不要となるほか、記入ミスや入力漏れといったヒューマンエラーの削減が期待されています。Fax送信との併用も可能で、紙運用との柔軟な対応も可能とのことです。また、院内ではDr.webを通じてPC上で検査結果をリアルタイムに閲覧できる環境が整備されており、医師はスマートフォンアプリを用いて報告タイミングやコメントをカスタマイズできる機能も備えています。院内検査機器との自動連携により、検査結果の一元管理が可能となっており、医療スタッフ間の情報共有が円滑に進んでいるとの報告がありました。

<高齢社会事業部門：持田和幸理事>

朝倉医師会からは、医療・介護関係者を対象とした「出張研修の取組」について発表がありました。朝倉医師会では、以前より多職種連携を目的とした研修会を継続して実施してきましたが、小規模事業所から「人員不足で会場開催の研修に参加しづらい」との声が寄せられていたそうです。これを受け、講師を各施設に派遣する形での出張研修を開始したとのことです。平成27年以降、延べ約1,480名がこの研修を受講しており、初期には「高齢者の栄養」や「看取り」をテーマとした内容が中心でしたが、近年は「感染対策」や「ACP（アドバンス・ケア・プランニング）」など、テーマの幅を広げて実施されています。講師は、医師会内の認定看護師や管理栄養士が中心となって担当しており、作業療法士（OT）や歯科衛生士については外部から講師を招いているとのことです。研修では、現場の実情に即した実地指導が行われており、受講施設からは高い評価を得ています。今後は、講師の育成や、ニーズに沿った研修メニューの開発、各施設への広報活動にも力を入れていきたいとの方針が示されました。なお、日程調整には難しさもあるものの、施設側は研修を快く受け入れており、あわせて現場職員の医療知識が不足している現状にも気づくことができたという報告もありました。

続いて、八幡区医師会から「八幡東西区における在宅医療・介護連携の取組」の発表がありました。これまで同医師会では、多職種・多機関連携の推進を目的として、全区を対象とした研修会を開催してきました。しかし、参加人数が増加したことから、現在は地域包括支援センターの圏域ごとに研修会を実施する形へと変更されています。令和4年からは、各圏域に世話人を配置し、それぞれの地域で「目指すべき姿」と「具体的な目標」を設定したうえで、世話人会議や報告会を開催しているとのことです。アンケート結果では、研修会の開催頻度について「2～3か月に1回」を希望する意見が多く寄せられており、今後は医療・介護職に限らず、行政職員や民生委員、社会福祉協議会の関係者にも参加を促していく方針が示されました。また、訪問看護ステーションやケアマネジャーによる専門連絡協議会も立ち上げられていますが、現在のところ加入率はおおよそ半数程度にとどまっている状況です。今後は、さらなる参加促進に努めていきたいとの意向が述べられました。

続いて、玉名郡市医師会からは、地域住民へのACP啓発の取組について発表がありました。玉名郡市医師会では、平成24年度より「上手な病院のかかり方」と

題した出前講座を地区の公民館で実施しており、これまでに全体の約 8 割の公民館で開催済みとのことです。これは、住民公開講座には約 400 名が参加されるが、参加しない層へのアプローチを課題として実施した取り組みとなります。病院におけるインフォームド・コンセントの場面では、「先生にお任せします」と答える患者が多く、自分の意思が十分に形成されていない現状を実感したといえます。また、講座を通して ACP の重要性を学んだ住民であっても、実際に家族と話し合うケースは少なく、日常生活に定着させることの難しさが課題として挙げられました。こうした課題の解決策として、「もしバナゲーム」を導入した事例が紹介されました。ゲームを通して、「最善の選択肢を探すこと」「気持ちは変化すること」「価値観は人それぞれ異なること」などを体験的に学んでもらうことで、ACP の理解を深めています。ゲーム終了後には、参加者が残ったカードの中から自分にとって大切な価値観を 3 枚選び、受講証として記入・配布しています。さらに、1 か月後にはアンケートを実施し、「家族と話したか」「価値観に変化があったか」などを確認しています。将来的には、住民一人ひとりが自分の意思をしっかりと医師に伝えることができる地域づくりを目指しているとのことでした。

最後に、那覇市医師会からは、「ACP および在宅医療・介護に関する普及啓発の取組」について発表がありました。那覇市医師会では、地域の実情に合わせた多様なツールを活用し、子どもから高齢者まで幅広い層への啓発活動に積極的に取り組んでいます。具体的な取組みについて紹介いたします。

●パンフレット「命（みち）しるべ」

相談窓口や利用可能なサービス、住まいの選択肢、看取りについての情報を掲載しており、本人の希望を記入する欄も設けられています。

●在宅医療・介護サービス冊子

那覇市内の医療・介護事業所情報を一覧で掲載し、地域資源を分かりやすく紹介されています。

●すごろく形式の教材

高齢者の医療や介護に関するライフイベントを疑似体験できる教材で、住民の理解促進に活用されています。

●創作劇の上演

沖縄の方言を用いた ACP 寸劇を市民フォーラムで披露し、地域に親しみやすい形で情報を届けています。

●ラジオ放送

働き世代を対象とした啓発として、ラジオを活用した情報発信も行われており、実施後のアンケートでは ACP の認知度向上が確認されたとのことです。

●ちむぐくルール

高齢者向け住宅における医療・行政連携のポイントをまとめた資料で、現場の理解と実践を支援しています。

このような取組みを通じて、地域に根ざした ACP の普及と、住民一人ひとりが自分の望む医療・ケアを選択できる体制づくりを目指しているとのことでした。

IV. 報告事項

1. 佐賀県医師会 診療所における新興感染症対策研修会の開催について

日時：令和 7 年 8 月 28 日（木）19：15～20：45

場所：佐賀メディカルセンター4階 城内ホール

出席者：檜崎史彦先生

2. 「日医かかりつけ医機能研修制度令和 5 年度応用研修会（日医会館受講者）」の開催について

日時：令和 7 年 9 月 21 日（日） 10：00～17：25

場所：日本医師会「大講堂」

定員：470 名

※本研修会は、当医師会も座学受講会場（サテライト）になる予定です。

3. 衛生検査所（検体検査会社、臨床検査センター）からの集荷料等の請求にかかる調査について

回答方法：下記 Web による回答（FAX 可）

<https://forms.office.com/r/nAy3waMDht>

※全会員医療機関を対象に本調査の依頼がっておりますので回答のご協力をお願いします。



4. 保険医療機関の集団指導の実施について

日 時：令和 7 年 7 月 31 日（木）

（視聴可能期間：7 月 1 日（火）～7 月 31 日（木））

※対象医療機関には九州厚生局佐賀事務所より直接通知が行われております。

5. 医療・介護専用の情報共有ツール MCS の導入について

※これまで役員間で試験的に活用していた MCS（メディカルケアステーション）について、当地区において本格的な導入を進めていく運びとなりました。

行政担当者およびカナミックの管理者 ID 所持施設の担当者と協力して作成した「運用方針」、ならびに登録から実際の活用までをスムーズに行っていただくための「MCS 導入・活用ガイド」が完成いたしましたので、ご確認下さい。

併せて、武雄杵島地区の連携の中心となる「武雄杵島 MCS 基幹グループ」への参加をお願いします。

導入・活用ガイド→



6. 令和7年度第1回医療・介護連携研修会について

日時：令和7年8月6日（水） 19：00～20：30

場所：会場（武雄杵島地区医師会3階大講義室）と

オンライン（Zoom）によるハイブリッド開催

テーマ：関係者との連携・情報共有を、誰とでもカンタンに

内容：「国の施策とMCSの概要」（仮題）

「MCSを活用した地域の多職種連携とユニークな活用事例」（仮題）

全国医療介護連携ネットワーク研究会 会長 土屋淳郎先生

理事 谷合久憲先生

7. 令和7年度新人看護職員研修 教育担当者・実務指導者研修の開催について

<日時>

共通研修：令和7年11月11日（火）、18日（火）、19日（水）

教育担当者研修：令和7年11月25日（火）、26日（水）

実地指導者研修：令和7年12月8日（月）

9：30～16：30 6時間/日

会場：佐賀県看護協会 看護センター

定員：各研修につき25名

受講料：無料

8. 令和7年度第1回在宅医療・介護住民公開講座のポスターについて

日時：令和7年8月23日（土） 14：00～16：20

場所：白石町総合センター

テーマ：映画とともに考える在宅医療と介護

上映する映画：ピア～まちをつなぐもの～

※先日、各医療機関・施設へ配布しておりますので掲示・周知のご協力をお願いいたします。

9. 令和7年8月行事予定

2日(土) 佐賀県医師会産業医研修会 14:00～ 2階会議室(サテライト)

5日(火) 鹿島藤津・武雄杵島地区医師会学術講演会 19:00～ 2階会議室

【特別講演】(19:00～19:30)

座長: 嬉野医療センター 糖尿病・内分泌内科 井上 瑛先生

演題: 「糖尿病のある人と一緒に考える糖尿病治療

～チルゼパチドを届けたい人・タイミング・そして工夫～」

演者: 森内科医院 副院長 森 博子先生

6日(水) 医療・介護連携研修会(MCS) 19:00～ 2階会議室および web

7日(木) 木曜会 13:00～ 2階読影室および web

8日(金) 片頭痛 Seminar 19:00～ WEBのみ

【講演】(19:00～19:40)

座長: しろいし脳神経外科 院長 伊藤 隆浩先生

演題: 「明日からできる片頭痛診療

～抗 CGRP 製剤を上手に使おう～」

演者: 池田脳神経外科 院長 池田 耕一先生

22日(金) 理事会 19:00～ 2階会議室 ※8月は第4金曜日開催です

23日(土) 在宅医療・介護住民公開講座(映画上映) 14:00～

白石町総合センター

27日(水) 南部地区合同理事会 19:00～ 乃多屋

※8月の全体会議は中止となります

※8月の「佐賀県医療勤務環境改善支援センター」の出張相談日は

12日(火)と26日(火)です。

労務管理全般に関することなど社会保険労務士による相談が無料で

受けられますのでぜひご利用下さい。

【 広報担当理事 田 中 雅 博】

【 ” 谷 口 亮】

令和7年7月24日